

姫路市北部の キマダラルリツバメ

法西定雄

本会（姫路昆虫同好会）の行事の一つに、兵庫県昆虫相解明がとりあげられている。それに関して、姫路市内のキマダラルリツバメの生息状態を、地元のみならずによって調査されたい。

姫路市内のキマダラルリツバメについての私の知り得た情報は、私の長男が姫路工大に学んでいた頃、1958年に、市内伊伝居から御立に行く途中の松林の中に、キマダラルリツバメが生息していることを報らしてくれた。

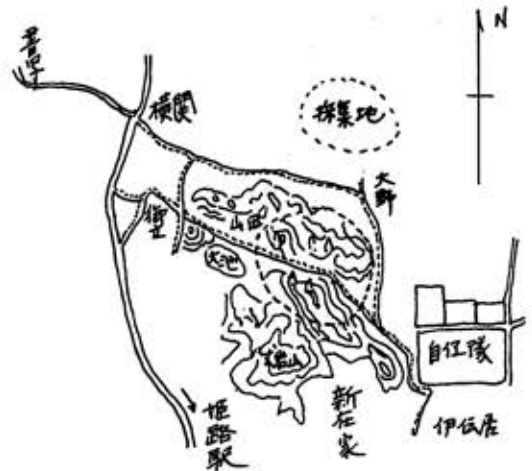
事実を確認するため、1959、60年の2ヶ年にわたって調査し、個体数は少ないが発生していることを確めた。以後、同地を訪れることもなく今日に及んでいる。

16年を経過した現在、この地にキマダラルリツバメが生息しているかどうかは疑問である。高度経済成長の波にのり自然が破壊され、昔の池や松林などすでになくなり、団地や工場に変身しているであろう。そのため、おそらく絶滅したのではなかろうか。私は現況を知りたい。ちなみに、キマダラルリツバメの発生時季は6月下旬が最盛のように思われる。

1960年6月19日、虫同好会で採集会を行なったときの採集記の一部と、当時の地図を掲げ、参考に供したい。

天候曇、後小雨、姫路到着10時、駅前から書写山行バスに乗り、御立にて下車、山田部落をすぎ大池を右に見て、左の赤松樹林に入る、此処が目的地である。赤松林が主で、所々にハンノキが生えていておよそ昆虫とは縁のない林相を示す。一般採集家の見落とし勝ちな盲点である。しかし、松の木に地衣類が着生しているのが特長である。キマダラルリツバメの幼虫はこの地衣類を食べるといわれている。

〔西宮市〕



ギフチョウの水浴

広畑政己

筆者は1977年4月4日に三田市に於いて、ギフチョウの水浴を目撃したので報告する。

天候は晴、その付近の状況は、直径約25mの池を中心に、落葉樹と常緑樹の混生する林となっている。

水浴をした個体は、約5m位の桜の木の上で、他の一頭の個体と縄張り争いをしていた。そこへ筆者が近づいたため、一頭が桜の木の上から池の中央に向かって飛び去った。その個体は、池の中央付近から3回にわたって、一瞬ではあるが飛びながら、トンボの産卵行動のように水につかり、対岸の林へと消え去った。

その個体の飛び方は、負傷した個体のそれではなく、通常の飛び方であった。筆者が急に近づいたために驚いてあのような行動をとったのか、あるいは縄張り争いの後の体の状態に関係があるのか、その原因は明らかではないが、このような習性についてはこれまで報告がないように思われるので報告する。

(S. 28: 姫路市)